

平成29年度学校評価（年間評価）

学校名	県立別府支援学校鶴見校
-----	-------------

前年度評価結果の概要	<p>1 教育・福祉・労働・医療等関係機関との連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の障がいの状態の実態把握についてケース会議やリハビリ見学をとおして連携を深めることができた。今後もリハ課との相互見学等を通して一層連携を深められるよう検討する。 ・生徒の卒業後の社会自立に向けて、各種事業や外部組織との連携で様々なサービスが利用できることがわかった。今後はこれらの情報を収集して保護者を含めた学校全体に広めていく必要がある。 ・研修をとおして自立活動の充実に向けて取り組むことができた。自立活動に関する書式の見直しを活かした取り組みを行う。 <p>2 災害等緊急時対策の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害等緊急時対策の確立 ・緊急時の対応として別府発達医療センターと避難方法や生徒の引き渡しについて協議を重ねてきた。今後は避難場所経営について両者が協議していく必要がある。 ・避難訓練や緊急時の対応訓練をとおして、防災意識を高められてきている。防災について、教員だけでなく生徒にどのように意識をもたせるかという視点での学習や取り組みが必要である。
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育実践をとおし、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するとともに、豊かな人間性を育み自立と社会参加をめざす幼児児童生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒が自己の障がいの状態を改善・克服することができるよう、教育・福祉・医療等関係機関等との具体的な連携に取り組む。 ・火山災害や地震等の災害時において円滑に幼児児童生徒の生命を守るとともに医療的ケアを適切に実施するため、防災・安全教育の充実に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児児童生徒理解と対応のための医療・教育・福祉等関係機関との連携の強化 ○ 防災・安全教育の充実

重点目標	達成（成果）指標	重点的取組	取組指標	P L S L	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価
					評価	分析・考察		
教育・福祉・労働・医療等関係機関との連携の強化	幼児児童生徒一人一人より良い生活の実現を図るため、利用する訓練・医療等関係機関との連携100%	個に応じた進路指導の充実に向けた連携	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス制度の内容や利用方法等の理解に向けた研修の実施（1学期、2学期に1回ずつ） ・保護者、教員を対象にした施設見学の実施（夏季休業中） ・ケース会議におけるセンターとの進路に関する情報交換（前期・後期） 	P L： 進路指導・支援部主任 S L： 各学部主事	3	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期に引き続き、後期ケース会議を実施し、ケース会議の報告を学部会毎に実施した。特に高等部では、実習や卒業後に向けて、小中学部では保護者との連携状況を共有することができた。 ・高等部3年生については移行支援会議を開催した。学校と関係者だけでなく相談支援専門員や保護者にも参加を呼びかけた。 ・高等部1年生の実習についてセンターと連絡を密にし、生徒の目標を共通理解しながら計画をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の実習が実施できなかった生徒についても、今後の進路について園と共通理解を図りながら実習などの学習を展開する。 ・ケース会議資料の形式（進路）の項目について、より担当者が関係する内容を記入しやすいように枠や記入例の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部とも子どもたちの実態把握及び理解に、よく取り組んでいます。今後もより一層のアセスメントの工夫をお願いしたい。 ・子どもたちは親元を離れ園で生活をしており、経験不足な面が多々あります。学校生活の中で、経験不足を補っていくようお願いしたい。 ・参加者を拡充した移行支援会議の開催は今後も継続していただきたい。保護者や園の関係者にも進路に関わる情報提供をお願いしたい。 ・保護者は、就労に向けて情報等不足しています。PTAと連携し、講演会や施設訪問等企画し取組を広げていってほしい。 ・これからも一人一人を大切にしてください。 ・今後もセンターとの連携強化を図り、授業改善や生活の質の向上に努めてください。
			自立活動の充実に向けた連携	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の実態把握と理解に関する研修会の実施（1学期、夏季休業中） ・学校公開や授業研究会におけるリハ課訪問の実施による指導内容への助言（年2回） ・リハ見学（全員数回・必要に応じて） ・個別の指導計画（自立活動）のケース会議での活用と授業実践での検証 	P L： 研究部主任 S L： 教務主任	4		
防災・安全教育の充実	火山災害や地震等、緊急避難に関する学習会の実施 各学部2回以上実施100% 医療的ケアの推進拡大	自然災害時の緊急避難場所と避難方法の確認、避難所経営整備、防災意識を高める環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・別府発達医療センターとの避難方法に関する協議：1学期 ・避難場所とその連絡方法の家庭との確認、一斉メール送信の活用：夏季休業中 ・避難場所の運営と集結マニュアルの作成及び避難マニュアルの活用：2学期末 ・3校関係職員との協議 複数回 ・必要な防災グッズの作成や非常食体験等による防災体験（学期ごと） ・避難訓練の実施及び地震や噴火等の自然災害の身近な痕跡（言い伝え、昔話等）に触れる学習の実施（学期ごと） 	P L： 特別活動・生徒指導部主任 S L： 保健部主任	3	<ul style="list-style-type: none"> ・火山災害に対する避難を初めて実施した。児童生徒が緊張感をもって取り組めた。教職員は幼児児童生徒の避難の仕方を検討した上で、避難訓練を行ったことで安全に避難させることができた。初めての避難場所だったが、スムーズに避難することができた。 ・中学部では階段を使った避難訓練の際に、一人一人の車椅子の持ち方等が共通理解できるよう、写真をラミネートしたものを携帯するようにした。 ・高等部では階段やスロープを想定した避難方法を学期毎に検討し、マニュアルを作成した。マニュアルをいつでも確認できるよう階段に設置することができた。 ・防災研修は、グループで活発な議論がなされており、研修の目的が達成された。 ・必要な防災グッズの作成や非常食体験等による防災体験については、今学期は実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もさまざまな災害を想定し、避難訓練や防災研修を取り組む必要がある。 ・防災教育を学校全体での避難訓練だけでなく、普段の授業の中でも取り組む機会を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火山災害については、肢体不自由の幼児児童生徒の移動や医療的ケアのある幼児児童生徒の避難は困難である。命を守るため、センターとも引き続き協議・検討を行ってほしい。 ・防災備品や備蓄等できるところから取組を実施している。引き続き取り組んでいってほしい。 ・授業中での防災教育を定着させてください。
			医療的ケア希望者の増加に向けた医療的ケア実施研修の受講推進	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア保護者全体説明会の実施 ・医療的ケア 基本研修（5月）・演習（8月）実地研修（2学期）の受講推進 複数名確保 	P L： 保健部主任 S L： 各学部主事	4		

総合評価 次年度への展望等	<p>1 教育・福祉・労働・医療等関係機関との連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の障がいの状態の実態把握についてケース会議やリハビリ見学をとおして連携を深めることができた。今後も一層連携を深められるよう検討する。 ・生徒の卒業後の社会自立に向けて、移行支援会議等の充実の必要性がわかった。今後は各種事業所や外部組織ともより一層の連携を図り、情報を収集して保護者を含めた学校全体に広めていく必要がある。 <p>2 災害等緊急時対策の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害等緊急時対策の確立 ・緊急時の対応として別府発達医療センターと避難方法や生徒の引き渡しについて協議を重ね、合同訓練等実施してきた。今後も両者が協議を重ね、合同訓練等を繰り返していく必要がある。 ・避難訓練や緊急時の対応訓練をとおして、防災意識を高められてきている。防災について、日常的に防災教育を計画し、幼児児童生徒にどのように防災意識を持たせるかという視点で授業実践に取り組む必要がある。
------------------	---